

## SEA TO SUMMIT for Children in 三瓶（島根）

### ～仲間と挑戦！神話の舞台「出雲」の海から三瓶山へ！～

#### 1 趣 旨

人力で海から里、そして山へと進む中で、自然の循環を体感し、かけがえのない自然について考えるとともに、仲間と困難に立ち向かい、声を掛け合いながら克服する喜びを味わう。

#### 2 事業の概要

##### (1) 期 間

令和6年7月31日（水）～8月3日（土）＜3泊4日＞

##### (2) 会 場

国立三瓶青少年交流の家、島根県立青少年の家（サン・レイク）とその周辺

##### (3) 後 援

島根県教育委員会、大田市教育委員会、出雲市教育委員会

##### (4) 協 賛

株式会社山陰合同銀行、山陰クボタ水道用材株式会社、イワタニ島根株式会社、サンベ電気株式会社、株式会社出雲村田製作所、島根中央信用金庫、株式会社ミック、企業警備保障株式会社、and people COFFEE ROASTERY、福間牧場、チチヤス株式会社

##### (5) 協 力

株式会社モンベル、島根県立青少年の家（サン・レイク）、島根県キャンプ協会

##### (6) 講 師

林野庁 近畿中国森林管理局 島根森林管理署「環境学習（水の循環について）」

##### (7) 対 象

小学校5年生から中学校3年生まで

##### (8) 参加者

24人（小学生16人、中学生8人） 募集20人程度（応募：45人）

##### (9) 日程

###### 【1日目：7月31日（水）】

|             |  |
|-------------|--|
| 9：30～10：00  | 集合・受付  |
| 10：00～11：00 | 開講式・入所オリエンテーション                                |
| 11：00～12：00 | 環境学習   |
| 12：00～13：00 | 昼食（レストラン）                                      |
| 13：00～14：00 | 仲間づくり  |
| 14：00～16：30 | ステージ① 水辺の動物観察「島根県立宍道湖自然館 ゴビウス」<br>「宍道湖グリーンパーク」 |
|             | ※午後は、宍道湖でサバニ体験を予定していたが、猛暑のために安全を考慮して中止とした。     |
| 17：00～18：00 | 夕食（レストラン）                                      |
| 18：00～19：00 | 自転車合わせ、Tシャツ配布                                  |
| 19：00～20：00 | 入浴   |
| 21：00～      | 就寝   |

【2日目：8月1日（木）】

|             |   |
|-------------|---|
| 6：30～ 7：30  | 起床・片づけ・準備   |
| 7：30～ 8：00  | 朝食（パン弁当）  |
| 9：30～13：00  | ステージ② バイクⅠ<br>稲佐の浜 → 長浜中央公園 → 出雲神西駅 → 常楽寺公民館<br>→ 出雲市立佐田中学校 |
| 13：00～14：00 | 昼食（弁当）  |
| 14：00～16：30 | ステージ③ 水遊び   |
| 17：00～19：00 | 入浴・テント設営  |
| 19：00～21：30 | 夕食 野外炊飯（すき焼き）   |
| 22：00～      | 就寝  |

【3日目：8月2日（金）】

|             |   |
|-------------|---|
| 5：00～ 6：00  | 起床・テント撤収  |
| 6：00～ 7：00  | 朝食 野外炊飯（カートンドッグ）  |
| 7：00～12：30  | ステージ④ バイクⅡ<br>出雲市立佐田中学校 → 伊秩やすらぎの水辺 → 子ご美の里<br>→ 北三瓶まちづくりセンター（昼食：おにぎり） → 交流の家 |
| 12：30～15：30 | シャワー・休憩   |
| 15：30～19：00 | 夕食 野外炊飯（BBQ）  |
| 19：00～20：00 | ファイヤーストーム   |
| 20：00～21：00 | 入浴  |
| 21：30～      | 就寝  |

【4日目：8月3日（土）】

|             |             |
|-------------|-------------|
| 5：00～ 6：00  | 起床・準備、      |
| 6：00～ 6：30  | 朝食（パン弁当）    |
| 6：30～11：30  | ステージ⑤ 三瓶山登山 |
| 11：30～12：00 | シャワー・休憩     |
| 12：00～13：00 | 昼食（レストラン）   |
| 13：00～13：30 | 閉会式・解散      |

### 3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

ア キャンプ中は自然の循環を意識できるようにするため、「環境学習」を最初のプログラムとして実施した。

イ 日本海（標高0m）から三瓶山の頂上（標高1,126m）までの道のりについては、子どもたちが全て自分の力で移動できるようなコースの選定、休憩場所の確保、宿泊場所の交渉を行った。また、山から海へ水が循環する際に欠かせない「川」については、キャンプの途中で「水遊び」として体験することで循環をよりイメージしやすくなるようにした。

ウ 気温が高くなると予想される8月に実施するに当たり、熱中症対策の一つとして午前中にバイク移動や登山等の活動を終え、午後からは運動量の少ないプログラムになるように設定した。

(2) 運営のポイント

ア 大学生ボランティア11人を対象にした事前研修については、1回目6月1日（土）～2日（日）の1泊2日、2回目6月22日（土）～23日（日）の1泊2日で実施した。大学生ボランティアは、キャンプ本番の活動プログラムをひと通り自分自身で体験し、休憩のタイミングや各活動の特性・危険なところを把握しておくことにより、キャンプ本番は班付きリーダーとして自信をもって子どもたちと関わっていた。

イ 危険度が高いと想定される「バイク移動」「水遊び」「登山」の活動については、島根県キャンプ協会に協力を依頼した。事前研修と本番では、豊富な知識と経験から様々なアドバイスやサポートをいただき、大きな事故やけがをすることなく活動を終えることができた。

ウ 参加者の健康状態や運動能力を把握するため、事前調査を行った。参加者の特性を把握・共有しておくことにより、職員とボランティアが対応しやすいようにした。また、学校で養護教諭を務めていた職員が全日程に帯同し、体調不良の際には速やかに対応できる体制をとった。

### (3) 広報のポイント

主に高校生以上を対象とした SEA TO SUMMIT は、鳥取県の皆生・大山ですでに開催されているが、子ども編が開催されることを山陰地域に広く周知するため、島根県及び鳥取県西部の対象学年（小学5年生～中学3年生）全員にチラシを配布した。

## 4 参加者へのアンケート結果

### (1) アンケートの集計 (%)

|       | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 |
|-------|----|------|------|----|
| 事業全体  | 96 | 4    | 0    | 0  |
| プログラム | 88 | 12   | 0    | 0  |
| 進め方   | 88 | 8    | 4    | 0  |
| 職員の対応 | 88 | 12   | 0    | 0  |
| ボラの対応 | 96 | 4    | 0    | 0  |

### (2) 参加者の声

- 小学5年生から中学3年生までの幅広い年齢の人が集まった中でも、お互いに声を掛け合ったり、助け合ったりして楽しく安全に活動することができました。ありがとうございました。
- このキャンプを通して友達が増えたからよかった。自転車で体力づくりができたと思いました。
- 川で遊ぶのが夏で暑い時だったので気持ちよかった。
- 色々なことに挑戦して、自分を変えられた気がした。
- 自然のことをたくさん体験して大変だなと思うこともあったけど、楽しくできて良かったです。

## 5 成果と課題

### 《成果》

- 3泊4日を通して、大きな事故やけがをすることなく、参加者24人とボランティア大学生全員がゴール地点の男三瓶山山頂（標高1126m）に立つことができた。
- 対象を小学5年生から中学3年生までにすることにより、小学生には中学生や大学生といった年上のお兄さん・お姉さんたちと過ごす中で自分の意見を出しながら協力する様子、中学生には年下の子たちへの声掛けや引っ張っていく様子が見られたため、このキャンプを通して異学年交流による気づき、学びを生み出すことができた。
- 大学生ボランティアのほとんどが教育学部の1回生でボランティア経験もほとんどなかったが、事前研修を重ね、3泊4日という長期間のキャンプを子どもたちと過ごしたことにより、最後の振り返りの時には大きく成長した顔つきや言動を見ることができた。

### 《課題》

- 職員の中に長期キャンプの運営を経験した者が少なく、ノウハウの蓄積が少なかった。
- キャンプの期間にも研修支援団体が多く入所しており、交流の家に残っている職員の負担も大きかった。
- 様々な対策はしていたものの、近年における気温上昇の影響で熱中症のリスクが常にあった。
- 暑さでプログラムが実施できないときの綿密な代替プログラムを事前に検討する必要があった。

【活動中の様子】



(担当：企画指導専門職付主任 西川 和志)